

公開実用 昭和62- 39783

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-39783

⑬ Int.Cl.⁴

A 63 H 3/02
3/36

識別記号

庁内整理番号

7339-2C
7339-2C

⑭ 公開 昭和62年(1987)3月10日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 芯入りぬいぐるみ玩具

⑯ 実 願 昭60-132130

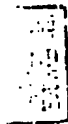
⑰ 出 願 昭60(1985)8月29日

⑱ 考 案 者 古 谷 隆

⑲ 出 願 人 株式会社 タカラ

⑳ 代 理 人 弁理士 瀬川 幹夫

東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会社タカラ内
東京都葛飾区青戸4丁目19番16号



明 細 書

1. 考案の名称

芯入りぬいぐるみ玩具

2. 実用新案登録請求の範囲

下記構成の芯材を備えることを特徴とする芯入りぬいぐるみ玩具。

(イ) 上記芯材は内部に二本の可撓性芯金を合成樹脂製の結束体内に埋設した有芯材において、上記結束体の略中間部を除いて他の部分を除去し、上記結束体中間部から四本の芯金を露出させたものであること。

(ロ) 上記芯材をぬいぐるみ玩具本体の四肢部に設けたこと。

3. 考案の名称

(産業上の利用分野)

この考案は芯入りぬいぐるみ玩具に関する。

(従来技術)

従来、この種のぬいぐるみ玩具は芯を用いることにより姿勢、形態を保持することが行なわ

れている。その際、芯材は数本の針金を中途部で互いにからみあわせたり、ひもで結束したりすることにより製作されているので、加工が面倒であった。特に小形のぬいぐるみ玩具用の芯材は加工に手間がかかっていた。また、結束ひもが切れて芯材がぼらぼらになってしまうこともあった。

（考案の技術的課題）

この考案は、上記事情に鑑みてなされたものであって、簡単に得られる芯材を用い、しかも比較的小形のでぬいぐるみ玩具に有用な芯入りぬいぐるみ玩具を提供することをその技術的課題とする。

（課題を解決するための手段）

上記課題を解決するため、この考案に係る芯入りぬいぐるみ玩具は、下記構成の芯材を備えることを特徴とする。

（イ）上記芯材は内部に二本の可撓性芯金を合成樹脂製の結束体内に埋設した有芯材において、上記結束体の略中間部を除いて他の部分を

除去し、上記結束体中間部から四本の芯金を露出させたものであること。

(ロ) 上記芯材をぬいぐるみ玩具本体の四肢部に設けたこと。

(考案の作用、効果)

上述のように、芯材は内部に二本の可撓性芯金を合成樹脂製の結束体内に埋設した有芯材において、上記結束体の略中間部を除いて上記芯材を露出させたものであるが、このような構成の有芯材としては、シールド電線として用いられている電線材に同じ構造のものがあり、これをそのまま利用して使うことができるので、非常に簡単に且つ安価に芯材を得ることができる。そして、上記電線材を利用した芯材を用いれば、小形のぬいぐるみ玩具にも適用することができるので、小形の芯入りぬいぐるみ玩具を容易に製造することが可能となり、しかも、結束部は合成樹脂製であるから頑丈であり、芯材がばらばらになることがなく、したがって実用的効果が大である。



(実施例)

以下、図面によって本考案の実施例について説明する。

第1図において、符号Aは芯入りぬいぐるみ玩具を示す。この芯入りぬいぐるみ玩具Aは芯材1と芯材1の周囲の肉付用部材2とから構成されている。

上記芯材1は合成樹脂からなる結束部1aから四本の芯1b、1b、1b、1bを延出させたもので、このような芯材1は、第2図に示すように、内部に二本の可撓性芯金3、3を合成樹脂製の結束体4内に埋設した有芯材5において、結束体4の略中間部4aを除いて他の部分4b、4b・・・を点線部分から除去し、上記中間部4aから4本の芯金3、3、3、3を露出させたものであり、上記芯金3はそれぞれ塩化ビニルやブチルゴム等の合成樹脂製の被覆材6、6によって被覆され、さらにその先端は丸く折曲げられている。なお、被覆材6は芯金3を被覆したままの状態にする方が好ましい。な



ぜならば、ぬいぐるみの使用途中において芯金 3 が折損した場合には、破損部分が外部に出て傷つけるおそれがあるからである。

上述の有芯材 5 は格別に加工、製造しなくてもよい。汎用品として既製の例えば直径 1.6mm 二芯 F ケーブル等のシールド電線材で十分に代用することができる。該電線材も上記芯材 1 と全く同じ構造であるから、これを所定の長さに切断し、さらにその外被（上記結束体 4 に相当）を中間部分を除いて剥ぎ取ることによって絶縁被覆（上記被覆材 6 に相当）を有する導線（上記芯金 3 に相当）を上述と同じ芯材を得ることができる。

F ケーブルを用いると、絶縁被覆（上記被覆材 6 に相当）と外被は合成樹脂材で形成され、可撓性に優れるので、芯材 1 としての使用には最適である。

芯材 1 の芯 1 b の先端部分は折返されているが、該先端部分がぬいぐるみ玩具 A の肉付け部材 2 を突き破って外に出ないように、各先端に

は合成樹脂製のキャップ7を取付けるのが好ましい。この場合、キャップ7は芯金3の被覆部材6にホットメルトによって接着固定するのがよい。

第3図は、上記芯材1の別の実施例を示すもので、芯1bは上述の有芯材から形成されたものの芯金3を互いに撚り合わせることによって形成したもので、このようにすれば、キャップを省略することができる。

以上述べたように、上記芯入りぬいぐるみ玩具によれば、芯材を得るための有芯材は、シールド電線として用いられている電線材をそのまま利用して使うことができるので、非常に簡単に且つ安価に芯材を得ることができる。そして、上記電線材から得た芯材を用いれば、小形のぬいぐるみ玩具にも適用することができるので、小形の芯入りぬいぐるみ玩具を容易に製造することが可能となり、しかも、結束部は合成樹脂製であるから頑丈であり、芯材がぼらぼらになることがない。

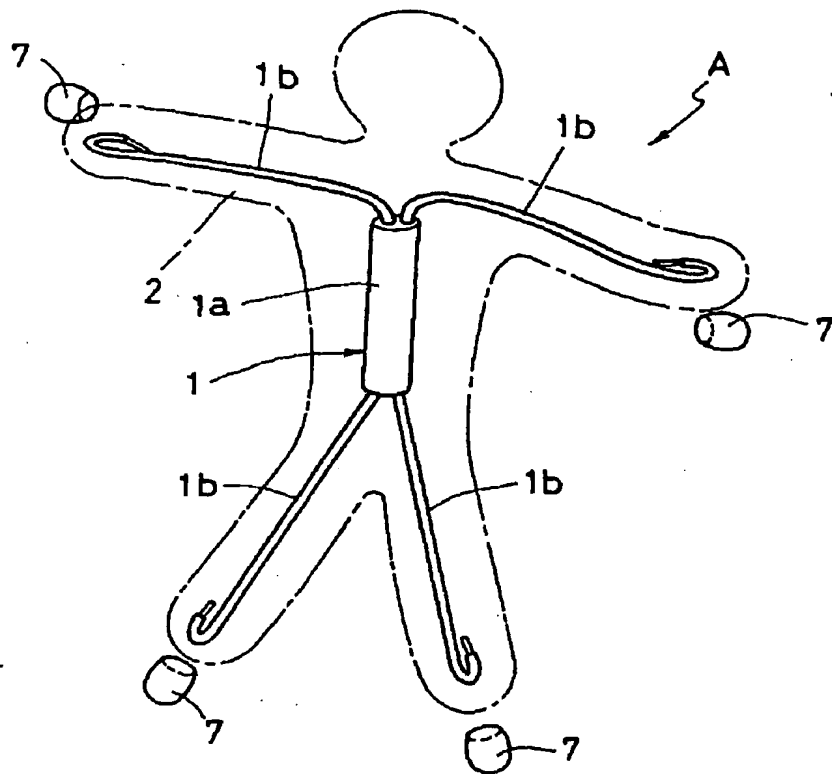
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案に係る芯入りぬいぐるみ玩具の斜視図、第2図は芯材を得るための有芯材の斜視図であり、第3図は芯材の他の実施例を示す斜視図である。

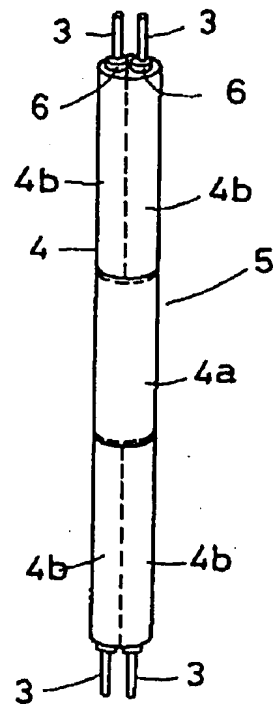
符号 A … 芯入りぬいぐるみ玩具、1 … 芯材、2 … 肉付部材、3 … 芯金、4 … 結束体、4 a … 結束体中間部、7 … キャップ

実用新案登録出願人 株式会社 タ カ ラ
代 理 人 弁理士 瀬 川 幹 夫

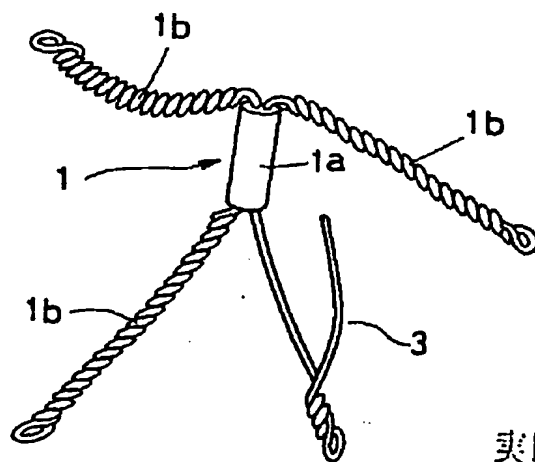
第 1 図



第 2 図



第 3 図



936

実用(2) 39783

出願人 株式会社 タ カ ラ
代理人 弁理士 瀬川幹夫

手続補正書（方式）

昭和60年11月25日

特許庁長官 宇賀道郎 殿



1. 事件の表示

昭和60年実用新案登録願第132130号

2. 考案の名称

芯入りぬいぐるみ玩具

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号

名称 株式会社 タカラ

代表者 佐藤 安太

4. 代理人

住所 東京都中央区新富1丁目18番4号

古川ビル2F ☎03(553)9058

氏名 (7491) 弁理士 瀬川 幹夫



5. 補正命令の日付 昭和60年11月19日

6. 補正の対象

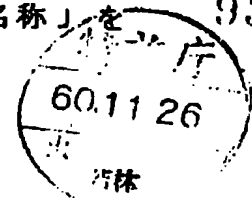
明細書の「3. 考案の詳細な説明」の欄

7. 補正の内容

明細書第1頁第14行目の「3.考案の名称」を 937
「3. 考案の詳細な説明」に訂正する。

実開 C2-39783

方式
審査



公開実用 昭和62- 39783

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-39783

⑬ Int. Cl. 4

A 63 H 3/02
3/36

識別記号

庁内整理番号

7339-2C
7339-2C

⑭ 公開 昭和62年(1987)3月10日

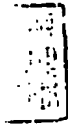
審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 芯入りぬいぐるみ玩具

⑯ 実 願 昭60-132130

⑰ 出 願 昭60(1985)8月29日

⑱ 考 案 者 古 谷 隆 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会社タカラ内
⑲ 出 願 人 株式会社 タカラ 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号
⑳ 代 理 人 弁理士 瀬川 幹夫



明 細 書

1. 考案の名称

芯入りぬいぐるみ玩具

2. 実用新案登録請求の範囲

下記構成の芯材を備えることを特徴とする芯入りぬいぐるみ玩具。

(イ) 上記芯材は内部に二本の可撓性芯金を合成樹脂製の結束体内に埋設した有芯材において、上記結束体の略中間部を除いて他の部分を除去し、上記結束体中間部から四本の芯金を露出させたものであること。

(ロ) 上記芯材をぬいぐるみ玩具本体の四肢部内に設けたこと。

3. 考案の名称

(産業上の利用分野)

この考案は芯入りぬいぐるみ玩具に関する。

(従来技術)

従来、この種のぬいぐるみ玩具は芯を用いることにより姿勢、形態を保持することが行なわ

れている。その際、芯材は数本の針金を中途部で互いにかみあわせたり、ひもで結束したりすることにより製作されているので、加工が面倒であった。特に小形のぬいぐるみ玩具用の芯材は加工に手間がかかっていた。また、結束ひもが切れて芯材がぼらぼらになってしまうこともあった。

（考案の技術的課題）

この考案は、上記事情に鑑みてなされたものであって、簡単に得られる芯材を用い、しかも比較的小形のものでぬいぐるみ玩具に有用な芯入りぬいぐるみ玩具を提供することをその技術的課題とする。

（課題を解決するための手段）

上記課題を解決するため、この考案に係る芯入りぬいぐるみ玩具は、下記構成の芯材を備えることを特徴とする。

（イ）上記芯材は内部に二本の可撓性芯金を合成樹脂製の結束体内に埋設した有芯材において、上記結束体の略中間部を除いて他の部分を

除去し、上記結束体中間部から四本の芯金を露出させたものであること。

(ロ) 上記芯材をぬいぐるみ玩具本体の四肢部に設けたこと。

(考案の作用、効果)

上述のように、芯材は内部に二本の可撓性芯金を合成樹脂製の結束体内に埋設した有芯材において、上記結束体の略中間部を除いて上記芯材を露出させたものであるが、このような構成の有芯材としては、シールド電線として用いられている電線材に同じ構造のものが有り、これをそのまま利用して使うことができるので、非常に簡単に且つ安価に芯材を得ることができる。そして、上記電線材を利用した芯材を用いれば、小形のぬいぐるみ玩具にも適用することができるので、小形の芯入りぬいぐるみ玩具を容易に製造することが可能となり、しかも、結束部は合成樹脂製であるから頑丈であり、芯材がばらばらになることがなく、したがって実用的効果が大きい。



(実施例)

以下、図面によって本考案の実施例について説明する。

第1図において、符号Aは芯入りぬいぐるみ玩具を示す。この芯入りぬいぐるみ玩具Aは芯材1と芯材1の周囲の肉付用部材2とから構成されている。

上記芯材1は合成樹脂からなる結束部1aから四本の芯1b、1b、1b、1bを延出させたもので、このような芯材1は、第2図に示すように、内部に二本の可撓性芯金3、3を合成樹脂製の結束体4内に埋設した有芯材5において、結束体4の略中間部4aを除いて他の部分4b、4b・・・を点線部分から除去し、上記中間部4aから4本の芯金3、3、3、3を露出させたものであり、上記芯金3はそれぞれ塩化ビニルやブチルゴム等の合成樹脂製の被覆材6、6によって被覆され、さらにその先端は丸く折曲げられている。なお、被覆材6は芯金3を被覆したままの状態にする方が好ましい。な



ぜならば、ぬいぐるみの使用途中において芯金 3 が折損した場合には、破損部分が外部に出て傷つけるおそれがあるからである。

上述の有芯材 5 は格別に加工、製造しなくてもよい。汎用品として既製の例えば直径 1.6mm 二芯 F ケーブル等のシールド電線材で充分に代用することができる。該電線材も上記芯材 1 と全く同じ構造であるから、これを所定の長さに切断し、さらにその外被（上記結束体 4 に相当）を中間部分を除いて剥ぎ取ることによって絶縁被覆（上記被覆材 6 に相当）を有する導線（上記芯金 3 に相当）を上述と同じ芯材を得ることができる。

F ケーブルを用いると、絶縁被覆（上記被覆材 6 に相当）と外被は合成樹脂材で形成され、可撓性に優れるので、芯材 1 としての使用には最適である。

芯材 1 の芯 1 b の先端部分は折返されているが、該先端部分がぬいぐるみ玩具 A の肉付け部材 2 を突き破って外に出ないように、各先端に

は合成樹脂製のキャップ7を取付けるのが好ましい。この場合、キャップ7は芯金3の被覆部材6にホットメルトによって接着固定するのがよい。

第3図は、上記芯材1の別の実施例を示すもので、芯1bは上述の有芯材から形成されたものの芯金3を互いに撚り合わせることによって形成したもので、このようにすれば、キャップを省略することができる。

以上述べたように、上記芯入りぬいぐるみ玩具によれば、芯材を得るための有芯材は、シールド電線として用いられている電線材をそのまま利用して使うことができるので、非常に簡単に且つ安価に芯材を得ることができる。そして、上記電線材から得た芯材を用いれば、小形のぬいぐるみ玩具にも適用することができるので、小形の芯入りぬいぐるみ玩具を容易に製造することが可能となり、しかも、結束部は合成樹脂製であるから頑丈であり、芯材がばらばらになることがない。

4. 図面の簡単な説明

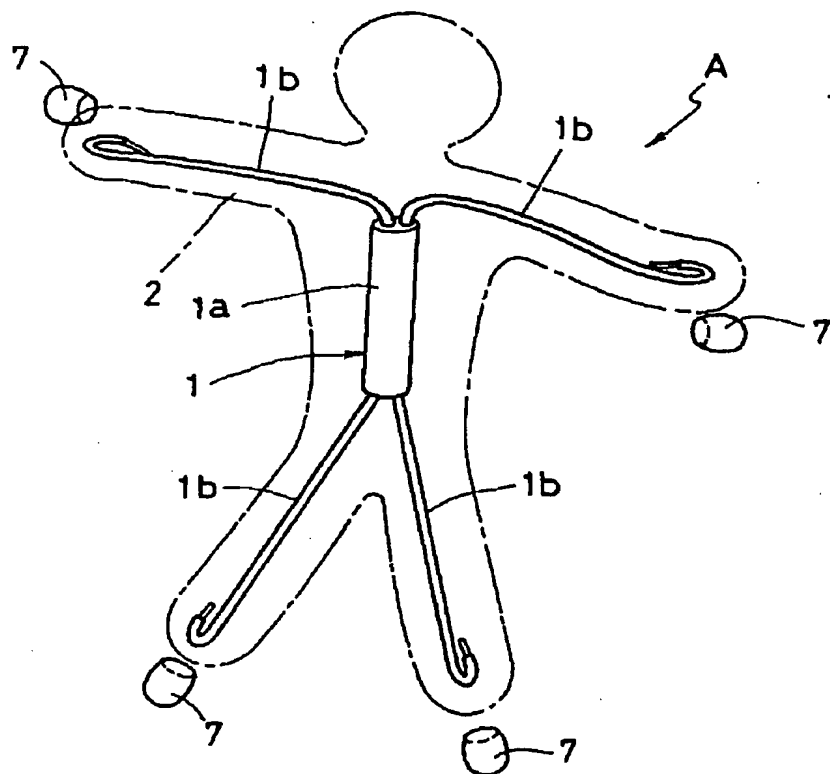
第1図はこの考案に係る芯入りぬいぐるみ玩具の斜視図、第2図は芯材を得るための有芯材の斜視図であり、第3図は芯材の他の実施例を示す斜視図である。

符号 A … 芯入りぬいぐるみ玩具、1 … 芯材、2 … 肉付部材、3 … 芯金、4 … 結束体、4 a … 結束体中間部、7 … キャップ

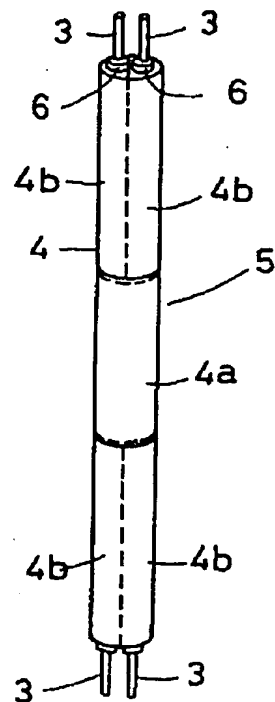
実用新案登録出願人 株式会社 タ カ ラ

代 理 人 弁 理 士 瀬 川 幹 夫

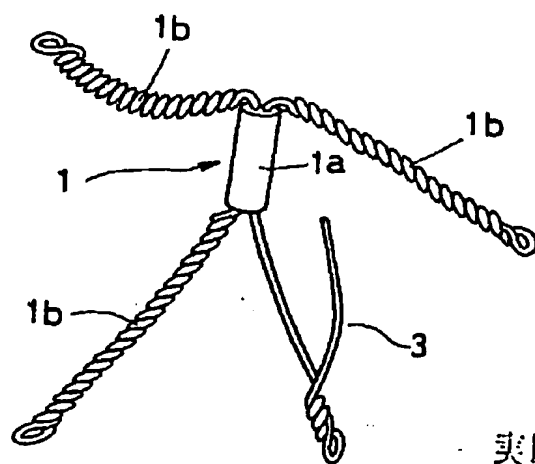
第 1 図



第 2 図



第 3 図



936

実用(2-39783

出願人 株式会社 タカラ
代理人 弁理士 瀬川幹夫

手続補正書（方式）

昭和60年11月25日

特許庁長官 宇賀道郎 殿



1. 事件の表示

昭和60年実用新案登録願第132130号

2. 考案の名称

芯入りぬいぐるみ玩具

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所 東京都葛飾区青戸4丁目19番18号

名称 株式会社 タカラ

代表者 佐藤 安太

4. 代理人

住所 東京都中央区新富1丁目18番4号

古川ビル2F ☎03(553)9056

氏名 (7491) 弁理士 瀬川 幹夫



5. 補正命令の日付 昭和60年11月19日

6. 補正の対象

明細書の「3. 考案の詳細な説明」の欄

7. 補正の内容

明細書第1頁第14行目の「3.考案の名称」を 937
「3. 考案の詳細な説明」に訂正する。

実開 02-39783

方式
審査

